

企業大学訪問について

私の班は企業大学訪問で、天皇陛下の心臓バイパス手術を行った順天堂大学医学部心臓血管外科の天野篤教授にお話を伺いました。私たちの班は、殆ど全員が医師を目指していたので、伺う場所を決めるときに天野教授のお名前が挙がったのですが、有名な方だったので本当に訪問できるなんて思ってもみませんでした。忙しいに違いないのに私たちのために時間を作ってくださったのは、天野教授は本当に心の広い方だからなのだと思います。

実際にお会いしてみると、早速お話をしてくださり穏やかな方だなという印象でした。天野教授が最初にお話してくださったのは、高齢化よりも少子化の方が問題であるということでした。私は、高齢化の方が深刻なのではないかと思っていたのですが、天野教授のお話を聞いて考えてみると子供が増えれば高齢化は進むことはない気がつきました。また、私はそれまで医師になる上で大切なことはとにかく勉強して知識を増やすことだと思っていましたが、天野教授の答えは違うものでした。それは、「自分が一番医師に向いていると思うこと」です。どんなに頑張っても一生をかけても1人の医師は国民の1%しか診ることができないのでより多くの人を効率よく治療するという意志がとても大切だとおっしゃっていました。また、どんな医師になりたいかという思いを強く持ち、気づいたことは無視しない、思い立ったらすぐやるといったことも大事だということでした。私は高校生活を送っていて気がついたことでもあったのですが、やるべきことを後回しにしがちなもので、これからは時間を有効に使うためにも、医師になるのに必要なスキルを身につけるという意味でもやるべきことはすぐにやるということ意識していきたいと思います。

天野教授は、日本大学医学部出身です。大学に入るまで3年間浪人生活を送ったそうです。浪人生活のときは、パチンコや麻雀にはまっていたそうですが、浪人3年目に外科医になりたいという意志が固まり、勉強に打ち込んで合格したそうです。パチンコで鍛えた腕の器用さは外科の手術で役立っているそうです。この浪人生活がなければ、医師になっていなかったかもしれないとも言っていました。私は、この話を聞いて医師には簡単になれるものではないが、意志を固くして諦めなければ夢は実現するのだと思いました。高校生のうちから具体的にになりたい医師像を持つことも大切なのだと感じました。また、浪人生活時代に培った社会性が外科医になってとても役に立ったそうです。外科の手術というのは執刀医だけでは成り立たず、助手などがいることで初めてできることだといいます。つまり、チームワークが重要になるということです。天野教授は、患者さんよりも仲間を大切にしています。仲間がいてこそ、手術が成功し患者さんが助かるからです。私は、部活動や学校での友達関係などで社会性が身につくと思うので、勉強だけではなく部活動もきちんとやること、友達と積極的に話すことも頑張りたいと思います。

天野教授といえば、天皇陛下の心臓バイパス手術をしたことで有名です。この依頼が来たとき、自分に来て当たり前だと思ったそうです。自分ほどこの手術を経験した人はいないという確信とこの手術への自信を持っていらっしゃるのです。天皇陛下の手術は、「平均台が30m□になった感じだった。」と、話されていました。また、「人は、一つ自分にはこれがあると思えることを作った方が良い。何でもいいけど、自分はそれが心臓バイパス手術だった。」という天野教授のお言葉を聞いて、私にはまだそういうものは無いなと思いました。大人になるまでに私も一つ見つけたいと思います。天野教授はこれまで6000件以上の手術をしてきましたが、その成功率は98%です。その内訳は、予定して行



った手術はほぼ成功、緊急手術は予定して行った手術よりも死亡率は高くなるので、それらを合計して 98%ということでした。この数字は並大抵ではありません。そんな天野教授が手術を行う際に心掛けていることはとにかく諦めないことだそうです。これは小学校の道徳にも出てくることだとおっしゃっていました。私たちが伺った週にも難しい手術があったようでしたが、難しい手術でも簡単な所を見つけてやっていくそうです。「難しくてもやるしかない!!□」と言われていました。手術は慣れが肝心で、答えを導き出すには知識と経験を統合させることが必要で、それが求められるのだそうです。全ての手術において天野教授は、判断のうち 15%を頭に聞くそうですが、あとは目と体で行うといいます。私はこのことにとっても驚きました。体が自然に動くくらい経験を積んだのだと思いました。やはり一流の方は、元々の能力だけでなくそれ以上の努力をしているのだなと強く感じました。このことに今の私を当てはめて考えてみると、例えば数学の場合、何度も何度も問題を解くことで体に染み込ませる、そしてテストのときは自然に解法が思い付き、ペンが動くというのと同じかなと思いました。何事も経験は裏切らないと思うので、私も高校生のうちは失敗を恐れないでチャレンジしていきたいと思います。

天野教授に今後の医学に期待することを伺うこともできました。治らない病気を治せるようになることだそうです。例えば、現在は治らないとされてる癌を良い形で治せるようになることです。また、進歩できない医療も

あることを教え、確実にできる医療を確実に提供できるようにすることも大切だといいます。先程のように数学に例えれば、簡単な計算を絶対にミスしないということだと思います。それに加え、予防医学もとても大事だそうです。予防さえできれば病気になることはないからです。私は、病気を治すことだけが医療なのではなく、予防することも医療なのだと気がつきました。

今回、企業大学訪問で天野教授を訪問させていただいて、自分には無かった考えを知ることができ、改めて医師になることへの難しさ、医師になってからの厳しさを感じることができました。天野教授のようなプロの方は、社会や自分の専門以外の分野にも目を向け、さまざまな思考を巡らしているのだと分かりました。どの道に進むとしても、色々なことに視野を向け、常に自分の考えを持つことが重要なのだと思いました。私は医師を目指しているのですが、天野教授がおっしゃっていたように医療の本だけではなく、歴史小説や文学作品にも高校生でたくさん触れて感じて、色々な知識を蓄えておきたいです。お話のあと、一緒に写真を撮ってくださったり、サインをいただいたりしたのですが、そのサインに「一途一心」という言葉がありました。この言葉は、天野教授著書のタイトルにも使われていたので調べてみると、「ひたむきに一心不乱に取り組むことでいつも以上の力が出る。」天野教授のお言葉を借りれば、「周囲からの評価でなく、自分自身の目標を置くことこそ、見えないなにかをつかむスタートライン。」ということなのだそうです。私はこの言葉の意味を知ったとき、本当にそうだなと思いました。周囲ばかりを気にしてやっていたら新しい発見などできるはずがなく、明確な目標をもってひ

たむきに努力することで新しい発見ができ、自分の可能性を広げることができるのかなと自分なりにですが解釈しました。天野教授と直接お会いしたことで、直接でしか聞けない貴重なお話を聞くことができたり、以前に本を読んで知っていたことの理解がより深まったり、みなぎるパワーをいただけたような気がしたりと本当に良い経験をさせていただきました。天野篤教授、お忙しい中、私たちのために時間を作ってくださり本当にありがとうございました。この宝物を大切に、医師になるという夢を叶えるべくこれからも頑張っていきたいと思います。最後にはなりますが、この研修に参加



させていただきました両親、サポートをしてくださった仙台二高の先生方をはじめ、この研修に関わった全ての方々に心から感謝します。ありがとうございました。

